

兵庫県のみ漁場環境情報 (西播海域 2 号)

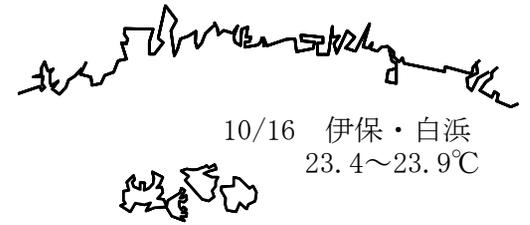
2023年10月18日発行
 兵庫県のみ研究所

西播地先では、依然として大型珪藻のコシノディスカスは確認されますが、発生量は大きく減少していました。沖合漁場においても、発生量は減少傾向にあります。窒素は、陸水等の影響が見られる地点を除き、西播地先で概ね1 $\mu\text{g at/L}$ 前後、沖合漁場で概ね2 $\mu\text{g at/L}$ 前後の値となっています。

(栄養塩・珪藻)

各海域のコシノディスカス発生量は海水1Lあたり、西播地先で20~150細胞(前回値:2000細胞)、沖合漁場で20~40細胞(前回値:50~150細胞)と減少傾向にある。赤穂漁場では、陸水等の影響が見られ、アンモニア態窒素の値がやや高くなっていた。また、小型珪藻のキートセロスやスケルトネマ等が、海水1mLあたり200細胞確認された。

水温図



		前回値	今回値	平年値	昨年値
西播地先	窒素	0.4	1.4	4.6	4.3
	リン	0.88	0.82	0.57	0.60
家島・坊勢	窒素	1.2	1.9	3.3	4.1
	リン	0.66	0.75	0.49	0.65

(10/12) (10/19)

栄養塩 (窒素) 図

2023年10月18日調査

